祝

鶴岡市に二つ目の日本遺産が誕生

～サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ～

●問合せ　本所政策企画課☎25 - 2111内線526

【ここにしかない日本遺産】

私たちの先人が大切に守り伝えてきた鶴岡の文化遺産。平成二十八年四月に認定された〝出羽三山～生まれかわりの旅～〟に続き、鶴岡の絹（シルク）の歴史的な価値や魅力に基づくストーリーが認められ、今年の四月に「サムライゆかりのシルク　日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ」が日本遺産に認定されました。

日本遺産の出羽三山とサムライゆかりのシルク。複数の日本遺産が存在する都市は国内でも数えるほどしかありません。また、この二つのストーリーは鶴岡ならではの貴重な文化・歴史資源なのです。

インタビューを交えて紹介します。

サムライゆかりのシルク

〝生きた業〟の産業観光地 ～松ヶ岡開墾場～

●ジャパンシルク源流の地

絹産業は明治以降の日本の近代化を産業面からけん引しました。旧庄内藩士約三千人が原生林を開拓し、国内最大規模の十棟の大蚕室が建設された松ヶ岡開墾場は、明治以降の日本の近代化に貢献した「ジャパンシルク源流の地」と言えます。

●生きた業としての絹産業

明治時代以降に開墾された多くの開墾地は、その後、農山村集落へと変わっていきましたが、この松ヶ岡地区は違う歴史をたどります。それは、開墾当時の施設や開墾地、経営方針など当時の形態を現在まで受け継いでいることで、日本開拓史上極めて貴重な例とされています。

開墾場綱領にある「徳義を本として産業を興して国家に報じ、以って天下に模範たらんとす」の教えが守り続けられ、養蚕から製糸、製織、精練、捺染までの絹製品生産の一貫工程が「生きた業」として継承されています。

【主な構成文化財】
●松ヶ岡開墾場（国指定史跡）
●松ヶ岡開墾士住宅（市指定有形文化財）

サムライゆかりのシルク

多層民家の里 ～田麦俣～

●養蚕と暮らしを兼ねた家

田麦俣地区にある四層構造の多層民家。豪雪地帯での山村生活と、なりわいである養蚕を一つの建物で行うために、このような形になったと言われています。

●養蚕作業の効率を高める工夫

養蚕は三層目で行われましたが、採光と通風によって養蚕作業の効率を高めるため「高はっぽう」と呼ばれる高窓が設けられました。この窓のある建物の姿がかぶとに似ていることから「かぶと造り」と呼ばれ、美しさと風格を兼ね備えた多層民家が生まれました。

【主な構成文化財】
●旧遠藤家住宅（県指定有形文化財）

【鶴岡の絹。その価値】

鶴岡の絹の歴史は明治五年の松ケ岡地区開墾に始まります。明治十年に松ケ岡開墾場内で国内最大の大蚕室群が整備され、絹産業の基盤ができました。その後、絹産業は大きく飛躍。鶴岡を中心に多くの人たちが絹産業に従事し、一大産業となりました。

百数十年を経た今でも、本市を含む庄内地域は絹産地の北限で、生産工程が全てそろう全国で唯一の地域です。また、市内には絹産業に関わる歴史的建造物が大切に保存活用されています。

鶴岡の絹産業と伝統文化を守りながら新たな可能性を広げる取り組みも進められてきました。それが、「鶴岡シルクタウン・プロジェクト」です。絹の新しい価値や創造性あふれる産業の創出に向け、住民、地域、行政が連携し取り組んでいます。また、副産物の「キビソ」を活用した製品は「ｋｉｂｉｓｏ」ブランドとして国内外で注目を集めています。

【二つの日本遺産を生かす】

今後、鶴岡の二つの日本遺産を体感しようと国内外から多くの方が訪れることが予想されています。

ユネスコ食文化創造都市、食と農の景勝地の取り組みとも連携しながら、来訪者の増加や地域の活性化につながるよう効果的な情報発信や受入れ環境整備を進めていきます。

日本遺産に認定された「サムライゆかりのシルク　日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ」を

致道博物館　館長
松ケ岡開墾場　総長　酒井忠久 氏

●鶴岡の誇れる文化を未来へ織り続ける

明治の頃、シルクは地域活性化を担う先端産業でした。庄内では先人先輩をはじめ、現在に至るまで多くの方々が関わり、絹産業の発展に努めました。これまでの多くの人たちの努力がこのたびの日本遺産認定に結び付いたこと、本当にうれしく思います。これからは、鶴岡シルクをいかし、文化や産業・観光など多方面から新たな可能性が広がることを期待します。

先に認定された日本遺産の出羽三山とあわせて、「サムライゆかりのシルク」が多彩な文化が織りなす鶴岡の魅力として国内外へ発信され、各地から大勢の皆様が鶴岡においでいただくことを心から歓迎いたします。

サムライゆかりのシルク

近代化の原風景
～商業・産業の近代化遺産群～

●絹産業の発展を支えた風間家

鶴岡の絹産業振興に力を注いだ人たち。その中には旧庄内藩の御用商人として発展し、鶴岡一の豪商となった風間家がいます。七代当主の風間幸右衛門は住居と営業の拠点として明治二十九年に丙申堂を建設しました。

二百年前の武家門や、約四万個の石が置かれた石置屋根が特徴で、母屋と四つの蔵など豪商の繁栄を今に伝えています。

●面影が残る歴史的建造物

致道博物館には多層民家や桑園整備への資金貸付け、養蚕指導が行われていた旧西田川郡役所が移築されています。また、市内新海町に立地する絹織物の精練を行っている会社では、明治三十九年に建設された工場と昭和初期に建てられた事務所が活用されています。このように、市内には絹産業が盛んだった当時の姿を今に伝える建造物が残っています。

【主な構成文化財】
- ●旧風間家住宅　丙申堂（国指定重要文化財）
- ●風間家旧宅　表門・西側板塀（各国登録有形文化財）
- ●風間家旧別邸　無量光苑釈迦堂・土蔵・表門・中門・北門・板塀（各国登録有形文化財）
- ●旧渋谷家住宅（国指定重要文化財）
- ●旧西田川郡役所（国指定重要文化財）
- ●旧致道館（国指定史跡）